

「勉強する！学習する！って」

今日、皆さんにお話する内容は、「勉強する・学習することは、どうしてもこれがある（必要感）とどうしてか知りたいなあ（好奇心）で支えられている。」ということです。私は、漢字を例にとって話しますね。

まず、これは何と読みますか。[競争] 挙手してください。[競（キョウ）] も [争（ソウ・あらそう）] も小4で習います。では、[競う] はどうですか。[競う] この訓読みは中学校で習います。最後です。[競る] はどうですか。[競る（せる）] この訓読みは高校で習います。競争や競うは皆さんの学校生活ではよく出てきます。だから、読めますし書けます。ところが、競るは、あまり出てきません。どうしてもという必要感はないですね。

では、必要感があるというのはどのようなことでしょうか。[耳（みみ）] は読めるし書けます。小1で習います。[鼻（はな）] も同じです。小3で習います。音読みはどうかというと [耳（ジ）鼻（ビ）] は読めますか。中学校で習います。でも、小学生も読めますし書けます。なぜでしょう。小学校の行事予定に「耳鼻科検診」と載っています。中学年になれば教室の連絡黒板にも書かれますし連絡ノートにも書くようになります。読めないと書けないと困ります。ここに必要感が生じます。自分の名前もそうですね。習ってないから読めない書けないではないですね。

では、好奇心を持つとはどのようなことでしょうか。皆さんの中で [薔薇（バラ）] を漢字で書ける人はいますか。挙手してください。私は、残念ながら書けません。私には、バラを漢字で書く必要感がないので読めますが書けません。書ける人には必要感があるかということ、恐らくないです。ここで出てくるのが、好奇心です。書ける人には、「へえ、バラって漢字で書くところなんだ。書けるとかっこいいかな。クイズに出るかも。」という好奇心がこの難しい漢字を覚えさせたのです。きっと、このような好奇心を持つことのできる人は、他にも「へえ、じゃあこれは何と書くのだろう。」と、どんどん書ける字が増えていきます。

難事件を推理し解決する江戸川コナンくんも様々なクイズ番組で活躍している漫画家のやくみつるさんもたいへん物知りですね。二人に共通するのは、好奇心が人一倍優れていることです。「へえ、なるほど」をたくさん持っているのです。必要感はないのかというと、事件を解決するためには漫画を描く上でバラエティーのパネラーやる上での情報として必要感もあるのです。必要感と好奇心の両方を併せ持っているわけです。

今日は、漢字を例にとってお話をしました。必要感だけで勉強する学習すると苦しくなります。好奇心だけで勉強するとバランスが悪くなります。必要感と好奇心の2つがうまくかみ合わせていくことが大切なのですね。